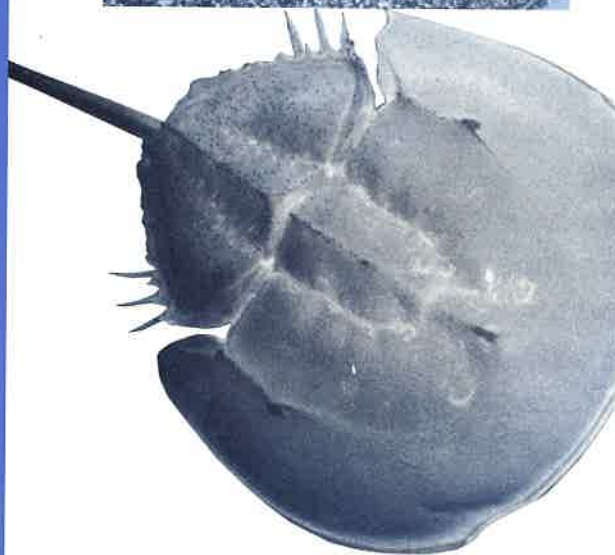
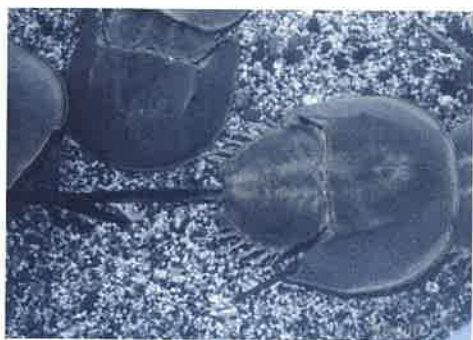


カブトガニの話



皆さんは、カブトガニという、原始時代の姿をいまだに引きずっているような格好の、海の生き物をご存じでしょうか。節足動物で、カニという名前が付いてはいますが、実際には三葉虫か何かのようにも見える生き物で、瀬戸内海沿岸のいくつかの場所に生息していますが、近年その数が減少し、絶滅も心配されています。

彼らは、節足動物の多くがそうであるように、何度も脱皮を繰り返すことによって成長します。ところが、その脱皮のようすが普通ではないのです。

脱皮したとたん、彼らのからだはおよそ四割も大きくなります。ということは、脱皮直前の彼らは、非常な圧縮状態にあるわけです。

脱皮前のからだの中で、大きくなりすぎてしまったことでやむを得ず、脱皮する。そんな感じがします。

ところが、彼らを人工飼育しようすると、なかなかうまくいきません。脱皮の段階で、ほとんどが死んでしまうんです。

おそらく、彼らにとって、脱皮というのは本当に命をかけた作業なんでしょう。私はそのことを思うにつれ、人間でも一緒にやらないのかと思います。

「そう簡単に脱皮なんかできないよ。一つ間違ったら、大変だ。物凄いリスクが待ち構えているかもしれないんだよ。」

それでも脱皮したい。脱皮しないと、生きていけないんだよと、カブトガニたちが教えてくれているような気がするんです。